

## 平成30年度第2回魅力ある農業・農山村づくり検討委員会 議事録

1 日 時 平成31年1月29日（火） 13時30分～15時30分

2 場 所 埼玉会館

### 3 出席者

(1) 委員（敬称略）

村上和夫、藤川智紀、横田友、廣田美子、金井清子、南埜幸信、小柳直昭

(2) 県

篠崎農林部長、小畑農業ビジネス支援課長（以下、農ビ課長）、  
林農村整備課長（以下、農整課長）、坂田農産物安全課長（以下、農安課長）

(3) 事務局

（農業ビジネス支援課）高村副課長、田原主幹、本田技師、今井主事  
（農村整備課）富岡主幹、平岡主事  
（農産物安全課）外島主査、亀有主任

4 主 催 埼玉県

### 5 概 要

(1) 開 会 高村副課長

(2) 挨拶 篠崎農林部長  
村上会長

(3) 平成29年度実績及び平成30年度実施状況

ア 中山間地域等直接支払事業

- 農業ビジネス支援課長から中山間地域等直接支払事業（資料1）について説明
- 質疑等

- ・委 員 平成30年度に関しては、協定数±ゼロで変更はないですが、平成29年度の協定数プラス2は協定の純増ということですか。
- ・担 当 そのとおりです。
- ・委 員 二つの協定の規模はほぼ同じでしょうか。
- ・農 ビ 課長 若干面積のバラツキがあります。片方は7.1ヘクタール、もう片方は1.4ヘクタールです。
- ・委 員 今回（平成29年度）の協定は今までの規模と比べてどうなのか、埼玉県の1協定あたりの平均交付面積は5ヘクタールくらいですよ。
- ・担 当 そのとおりです。
- ・委 員 今回の協定は平均的な規模のものなのか教えて欲しいです。
- ・担 当 美里町は7.1ヘクタールなので、大体そのぐらいです。
- ・委 員 傾斜で急傾斜の上に超急傾斜というくくりが確かできたと思うのですが、超急傾斜の実績はどうですか。

- ・担当 秩父市の沢戸集落で約43万円、小鹿野町の八谷集落で7万6千円、合計で約50万円の交付実績です。
- ・委員 では、効果があったということですね。
- ・担当 そのとおりです。
- ・担当 沢戸集落は夏に現場を視察していただいたところです。沢戸集落はあちらの集落になります。
- ・会長 二つ協定が増えたのもそうですが、参加者数が増えていますよね。全国で見ても協定数が減っているなか、参加者数が増えているのはすごいと思います。事業そのものの意義がはっきり見えますね。

## イ 多面的機能支援事業

### ○ 農村整備課長から多面的機能支援事業（資料2）について説明

### ○ 質疑等

- ・委員 全国的にも医療福祉連携の事例は少ないですが、埼玉県で事例がない要因は何でしょうか？
- ・農整課長 医療福祉の連携というのは、介護施設や病院といった地域の医療福祉施設と連携して保全活動をすることです。本県では、医療施設の隣接地で活動をしている組織が無い事などが事例の無い要因と考えております。
- ・委員 園芸療法とか認知症予防の観点でオリンピックに向けて社会福祉法人との連携について障壁は何かありますか。
- ・農整課長 これからは重要なテーマの一つだと思うので、分析・検討したうえで進めていきたいです。
- ・委員 医療福祉連携に関しては、今後は基礎的な保全活動が行き届いたうえで医療福祉連携の周知について県がどこまで支援できるのでしょうか。
- ・農整課長 県北部には農福連携施設があり、そうした施設の話聞きながら進めていきたいです。
- ・委員 長寿命化の更新では、コンクリート水路が多いように見受けられますが、環境保全の方策は取られているのでしょうか。
- ・農整課長 活動組織は、管理性を考えて水路を更新していると思います。しかし、資料P5の共同活動のように、学校などと連携し環境に配慮した取組を進めていければと考えます。
- ・委員 栃木県の活動組織を見させてもらいましたが、地域と連携を図りながらホテルの保護活動をされていました。そのように進めていければ良いと考えるのですが。
- ・農整課長 本県では、例えば羽生市発戸の活動組織では、ホテルの保護活動等を実施しています。
- ・委員 資料P5の写真は、農村行事（ほろかけ祭り）が載っているが、公共のお金を神社のお祭りに投入できるのですか。

- ・農整課長 この祭りは宗教ではなく集落の祭りであり、地域コミュニティを醸成する目的のために支援しております。
- ・会長 埼玉県はこの事業に非常に努力して成果も大きいと思っておりますが、学術的には多面的機能だが活動内容として認められないなど交付金制度上で困っていることはないですか。
- ・農整課長 地元からは、取組内容で困っているという話は聞こえていないのですが、長寿命化について予算が少ないという話は聞いております。
- ・会長 資料 P10 の今後の進め方のところで、計画、実施、成果の点検はありますが、今後どのように事業を拡大していくかや拡大取組の努力に対する評価もあっても良いのではないのでしょうか。
- ・農整課長 今後、地域の声を拾い上げて最終評価につなげていきたいです。
- ・委員 法面の草刈り軽減のために、芝を活用したりしているのですか。
- ・農整課長 カバープランツで法面を覆う取組も実施しております。

#### ウ 環境保全型農業直接支払支援事業

○ 農産物安全課長から環境保全型農業直接支払支援事業（資料 3）について説明

○ 質疑等

- ・委員 5 ページの全国を取組について、地域特認取組は面積が多く、地域特認取組実績の半分が滋賀県、残りは北海道と山形県でほとんどを占めていると思うのですが、滋賀県で地域特認取組が突出して多い理由と、それが埼玉県を含めて他の地域に普及していない理由というのは何かあるのでしょうか。
- ・農安課長 おっしゃるとおり滋賀県は地域特認取組がダントツに多いとお聞きしています。滋賀県では水稻実施面積が多く、そこが地域特認取組を多くしているという状況だけは認識しているのですが、他県に普及できる内容なのか、そこまで詳細に把握していないので、また勉強させていただければと思います。
- ・委員 冬期湛水をしているのですかね。
- ・農安課長 冬期湛水では、関係機関との調整が必要になるため、難しい面もあると思います。
- ・委員 滋賀県庁の方とお話しをした際、琵琶湖の水質改善するために周辺の農業がどうあるべきかが大きなテーマとなっており、環境保全型農業やオーガニックが県庁主導で進められているそうです。水源地の農業のあり方ということで滋賀県の役割があるようです。
- ・委員 GAP に関しては認証を求めないとありますが、その評価方法はどの様なものですか。
- ・農安課長 農業者は何を取り組むかを書類で申請し、職員が確認するという方法を取っております。
- ・委員 確認というのは、認証までは行かないが、実施された実態があるかどうかと言うことですか。

- ・農安課長 はい、申請された取り組みが実施されているかを確認する事です。
- ・委員 国際水準GAPというのとはどのような項目を実施するのですか。
- ・農安課長 取組項目自体は非常に簡単なものです。例えば、農薬保管庫の鍵をかけるなど、まずは簡単なものから実施していただいています。
- ・委員 国際水準GAPの実施とは、何を以て実施とみなすのでしょうか。S-GAPに取り組んでいけば、国際水準GAPを実施しているとみなされ、補助金の要件を満たすということでしょうか。
- ・農安課長 GAPの取組の中から二つを取り組めば制度上は実施したことになります。S-GAPは項目を厳選してまとめたものですが、各項目を細分化していけば、実施内容はGLOBALG. A. P. 等の民間認証GAPと同じになります。
- ・委員 S-GAPに取り組んでいけば問題ないということですか。
- ・農安課長 この制度上では問題ないです。
- ・委員 平成30年度の制度変更により国際水準GAPの実施が新たに要件に追加され、埼玉県内のほぼ全ての団体が移行することができたのはすごいことだと思います。しかし今後、GAPの取組の精度を上げていくことが要件になると思うので、団体のステップアップが必要だと思います。そこで、今後現場が苦勞しそうなことを、どうお考えですか。
- ・農安課長 国としてもどこまで農家さんが取り組めるか、という手探りの中で制度設計をしていると思います。現時点ではGAPの理解も難しく、さらには抵抗感もある中でほとんどの団体が制度を続けていただいたことで、1つ大きなハードルを越えたかと思います。その中で、メリットを感じる方が増え、波及効果が現れることを期待したいと思います。
- ・委員 GAPの認証組織が農林水産省とは別にあるなかで、GAPを要件の一つにしてしまつてよいのか疑問を感じます。どこまで国が認証組織とすりあわせできるのか気になります。また、埼玉県のS-GAPにおいてもどうなのでしょううか。
- ・農安課長 今はまだ大きな問題があるようには認識しておりません。S-GAPについては、認証ではなく、県が適合する農場かを評価するという形をとっています。民間の認証機関における認証とは違うところがあります。

## エ 中山間地域ふるさと事業

○ 農業ビジネス支援課長が中山間地域ふるさと事業（資料4）について説明

○ 質疑等

- ・委員 農林水産省から都市農村交流や農泊などに関する色々なメニューのある補助事業があると思いますが、県と国で補助の段階分けなどはあるのでしょうか。まず県の事業で走り出し、その後国の補助事業で発展的な内容に移行するような。

- ・担 当 今年度は農泊研修をしました。確かに国の農泊事業はあるのですが、埼玉県で農泊、泊まることとなると難しいと考える人もいると思います。そのような方たちに、まずは農泊の考え方を認知してもらうということで、今回農泊をテーマに研修を開きました。今回の研修で農泊の考えや国の事業の存在が広まり、国の事業に興味があれば国の事業に手を挙げていただくと、ないとしても地域活性化の取組のとして農泊もありますので、本事業の啓発分野ということで実施しました。
- ・委 員 其他の国の人材育成や都市農村交流の補助事業に関係してですが、そのような事業では県と国の使い分けがある中で、県で補助をするということ、規模で使い分けをするのか、段階で変えていくのかと様々あると思うのですが、どうい  
うお考えですか。
- ・担 当 ふるさと事業自体、人材開発でできますが、県で支援すべきものとする、事業を始める際の最初の段階の研修が一番かと思います。
- ・会 長 私からも一言、私が少し不安なのが、このふるさと支援隊の事業をやったことが大学生にどう効果をもたらしているのかが分かりにくい事です。実は分からなくてもいいという説もないわけではないですが、この事業をやることによって、農業者側はどう変わったのか、例えば新しいものが出来たか、農業のサービス化進んだとか、それから学校側としては少し地に着いた考え方を  
する学生が増えたとか、この事業を実施することの効果が政策的に示されるともう少し事業の力が出るという気がするのですが、いかがなものでしょうか。
- ・農 ビ 課長 おっしゃるとおりです。大学側からすると学生さん、若い方に中山間のあり  
ようを知ってもらうことがあり、その機能は十分に機能していると思うのですが、その先、地域を学生さんが自分達の力で動かしていくとなると、難しいところがあります。ただ、現場の側としますと高齢化なり過疎化ということで、少なくとも若い方が定期的に来てくれて、顔をあわせるという空気もありますので、地域の活性化まで行かなくとも、地域の元気付けになります。事業としてどれほどの効果という、そこまですると活動もなかなか厳しくなる  
のかなと。
- ・会 長 この事業では、中山間地域を大学生に知ってもらうこともあるのですが、もう  
一方で働く事を知るというのは重要な事と思います。もしこれに加えていただ  
けるのであれば、農業をとおして「働き方を知る」ような、そのような事が  
ふるさと支援隊の意義として各大学が持つようになったら、支援隊にきた人・  
働いた人はいい人生を送れるかと思います。
- ・委 員 今会長がおっしゃった、参加された大学生に感想文ではないですが、来る前の  
志やきっかけとか、来てどう感じたかなど、そのような記録は集めています  
か。
- ・担 当 報告書を提出いただいたり、2月に開催する活動報告会で、各支援隊の報告も  
挙げてくださりますので、ホームページに上げられる分は周知していきたい

です。そうすることで、学生さん達の農山村に対する物の見方の変化や、学生さんの専門分野が農山村で活きた結果を見ていただくことが可能かと思いません。

- ・会長 いずれにせよ、今までの事業効果は農山村とか農家に与えられるものでしたが、この事業では効果は両者にシェアしていくものです。地域や農家の効果になることはもちろん、ここに参加した学生に与えられる効果が抜群に大きいことも引き続き報告してください。

#### (4) 環境保全型農業直接支援事業の最終年評価について

- 農産物安全課長が環境保全型農業直接支援事業最終年評価（資料5-1、資料5-2）について説明

- 質疑等

- ・委員 環境保全型農業直接支払制度の施策に対する評価の軸としては、地球温暖化、つまり CO2 のことと、生物多様性の二つにすることが全国共通の評価軸ですか。
- ・農安課長 おっしゃるとおりです。
- ・委員 これ以外の評価軸、例えば地下水汚染などといった評価軸はないのですか。
- ・農安課長 国から求められている評価軸がこちらの2つになります。
- ・委員 資料5-1、12ページの施策の点検及び今後の対応について、地域特認取組の「草生栽培」、「冬季湛水管理」の廃止とありますが、これは項目を出しておくのにお金がかからなければ、廃止しなくてもいいのではないのでしょうか。
- ・農安課長 平成27年度から平成30年度まで要望がなく、平成31年度の要望もない状況であり、現状必要がないと判断し、廃止としたところです。
- ・委員 一方で、リビングマルチの地域特認取組は今後とも取り組むとのことですが、なかなか進んでない現状があるのは、労力的・金銭的な負担がかかっている可能性があると思っていて、補助額が充分かということに関して、現場の意見は何かあるのでしょうか。
- ・農安課長 詳しくは分析していませんが、やはり手間がかかるところに原因があるかと考えております。
- ・委員 なぜ取組が進まないのかをこの評価書に入れてもいいのかなと思います。
- ・会長 たくさんの意見をいただき、ありがとうございました。それでは、意見を反映して国に報告をお願いします。

#### (5) 閉会